

【山口市】

端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数（人）	13,933	13,718	13,430	13,040	12,691
② 予備機を含む 整備上限台数（台）	16,022	15,775	10,831	1,684	1,282
③ 整備台数（台） （予備機除く）	0	4,547	8,580	0	0
④ ③のうち基金事業 によるもの（台）	0	4,547	8,580	0	0
⑤ 累積更新率（％）	0	33	97	100	103
⑥ 予備機整備台数 （台）	0	66	119	0	0
⑦ ⑥のうち基金事業 によるもの（台）	0	66	119	0	0
⑧ 予備機整備率（％）	0	1.5	1.4	0	0

（端末の整備・更新計画の考え方）

山口市ではGIGAスクール構想に基づく1人1台端末を令和2年度に整備した。端末の更新は2年に分割して行い、令和7年度は中学校を、令和8年度は小学校を整備する。整備年度の翌年度から新たな端末を利用することから、令和9年度時点で③の整備台数が100%を超えるよう端末整備を進めていく。端末の予備機については、各学校での保管を含めた必要数を調達する。

（更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について）

○対象台数：14,646台

○処分方法

故障時の予備機など学校での活用を検討する。また、その他施設での再使用を調査研究する。経年劣化などで再使用できない端末は処分事業者に適正な処理を依頼する。

○端末のデータの消去方法

データの消去も含め、処分事業者へ委託する。

○スケジュール（予定）

端末の段階的な更新に合わせて、台数を精査し処分する。

【山口市】

ネットワーク整備計画

1 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合（％）

令和 6 年 5 月～10 月に集約 SW(L3SW)直下での有線での帯域測定を実施した。

必要なネットワーク速度が確保できている学校数：49 校／49 校

総学校数に占める割合：100%

2 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

全ての市立小・中学校で必要なネットワーク速度が確保できていることから、引き続き安定したネットワーク環境の維持と必要に応じた改善に取り組んでいく。

【山口市】

校務DX計画

本市では「山口市デジタル教育推進計画」に基づき、校務処理の効率化と事務負担の軽減が図れるよう、教員の業務が円滑に進む環境整備に取り組んでいる。文部科学省が作成した「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリスト」も踏まえ、引き続き教育情報セキュリティポリシーの遵守とともにクラウドサービスを活用した校務 DX を推進する必要がある。

（１）教育情報セキュリティポリシーの運用

情報資産の適正な管理と運用は一層重要なものとなっており、本市では平成 29 年 3 月に「山口市学校情報セキュリティポリシー」を策定し、情報資産の安心・安全な管理を行っている。今後も文部科学省の「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」の改訂等に合わせ、ポリシーの見直しを図り、情報セキュリティの確保に取り組んでいく。

（２）クラウドサービスの活用

保護者から遅刻や欠席等の連絡をすることができる学校・保護者間の連絡システムを活用し、学校・保護者双方の負担軽減に取り組んでいる。学校で実施する様々な調査やアンケートについても、作成から集計まで行えるクラウドサービスの活用を推進することで、より一層の業務改善を図っていく。また、「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言にある、ゼロトラストに基づくネットワーク統合に関しても調査研究を進めていく。

（３）FAX や押印の見直し

令和 3 年 2 月に「山口市教育委員会規則で定める申請書等の押印の特例に関する規則」を施行するなど、FAX や押印の廃止に向けた取組を進めている。令和 6 年 8 月 9 日付け文部科学省事務連絡「学校との FAX でのやり取りの慣行・学校現場に関連する押印ルールの見直しについて」を受け、引き続き FAX や押印の必要性について検討を進め、更なるデジタル化に取り組んでいく。

（４）統合型校務支援システムの運用

パブリッククラウド上で運用する統合型校務支援システムを令和 5 年度に構築し、令和 6 年度から運用を開始した。成績処理や、出欠管理、時数管理、健康診断票の管理などを一つのシステムで一元的に管理するとともに、学籍情報を校務支援システムに直接取り込むことでデータの手入力作業を無くしている。今後も本システムを活用し、校務の効率化と事務負担の軽減に取り組んでいく。

<参考> 山口市デジタル教育推進計画（令和 5 年 3 月策定）

<https://www.city.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/83170.pdf>

【山口市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現をめざす学びの姿

本市における学校教育のデジタル化の推進に関して、基本的な方向性や具体的な取組を示す「山口市デジタル教育推進計画」を令和5年3月に策定した。「自ら学び 多様な人と学び合う 子どもの育成 ～ICTを活用した新たな学びの創造～」を本計画の基本目標として掲げている。子どもたちの「本物の学力」の育成のため、教員が児童・生徒に知識等を教える授業から、児童・生徒が主体となり、自らが考え、他者との対話・協働により深く学ぶことのできる質の高い授業への転換を進めていく。

2 GIGA 第1期の総括

市立小・中学校に1人1台端末の整備を行うとともに、大型提示装置(電子黒板)や高速大容量の通信ネットワークを整備するなど、学校教育におけるICT機器や通信環境の充実に取り組んできた。また、教科横断的に活用できるソフトウェア(学習用ツール)に加え、授業や家庭学習におけるデジタル教材等の活用を促進するため、指導者用デジタル教科書やAIドリル、授業支援ソフトの導入を行い、ソフトとハードの両面からICT教育を推進した。さらには、山口情報芸術センター(YCAM)との連携により、これからの山口を担う人材の育成を目的とした山口市独自の授業づくりである「やまぐち子ども未来型学習プロジェクト」を展開したところである。引き続き、子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、教員研修の充実など、すべての教員がICTを活用した指導力を向上する取組を進めていく。

3 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末の更新に当たっては、ICTの利用自体を目的化するのではなく、指導の目標やねらいを明確にしたうえで、目標等を実現するための学習ツールとして活用を進めていく。「山口市デジタル教育推進計画」に基づき、「ICTの効果的な活用による学びの充実」や「教育機会を確保するためのICT活用」などに取り組む、情報活用能力や課題解決能力など子どもたちの資質・能力の育成に取り組んでいく。そして、ICTを最大限活用することにより、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を目指す。

<参考>山口市デジタル教育推進計画(令和5年3月策定)

<https://www.city.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/83170.pdf>